



ユネスコスクール年次活動報告

～末広小学校のアイヌ文化学習・生活科・総合的な学習・特別活動における実践

千歳市立末広小学校

校長 高橋 真

1.本校のESD活動の趣旨

千歳市は、北海道が蝦夷地と呼ばれた頃より東西を結ぶ要所であり、千歳川周辺には鮭や鹿など豊富な資源に恵まれたことから多くアイヌ民族が集落を構え、現在でも市内に多くの方がお住まいである。

本校では平成5年にアイヌ文化を学ぶ実践が初めて行われ、平成8年には地域文化資料室としてアイヌ住居「チセ」の模型を設置、生活科・総合的な学習のカリキュラムに位置づけた「アイヌ文化学習」が本格的に始まった。平成23年～25年には「北海道ふるさと教育推進事業」の指定を受け、平成29年～30年にも「北海道ふるさと教育・観光教育等推進事業」の指定を受けた。

アイヌ民族の伝統には、命の大切さ、自然との共生、郷土の歴史学習への興味関心、環境、食、人権など幅広い教育的価値が内在し、本校のアイヌ文化学習は、「自然や命を大切にする心・生き方」の学びとして、持続可能な社会の創造や異なる価値観を持つ人間同士の相互尊重・共生をその目標に掲げている。

アイヌ文化学習の他にも、主に生活科や総合的な学習の時間で、地域の方の協力を得ての交流・福祉学習、市内施設等の福祉に関する調べ学習、異年齢児童の相互理解や協力の場、国際理解教育などを通し、「人とのかかわりを深めながらの、身近な自然・社会・文化の学び」に充実に努めている。

また特別活動として、児童会などが中心となり、エコ活動やユネスコスクールとしての意識を高めるための活動にも取り組んでいる。

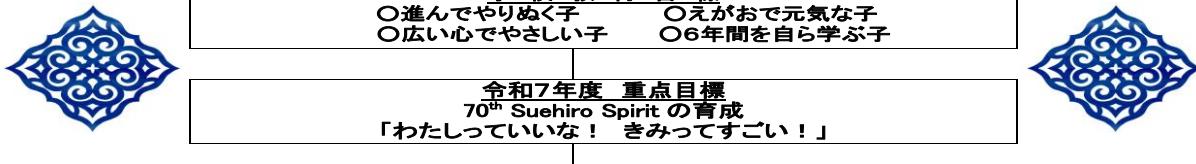
2.全体計画・活動の概要

学年	アイヌ文化学習			生活科 総合的な 学習の時間	特別 活動 など
	ねらい	時数・内容	領域		
1年	アイヌ民族は現代社会の中で一緒に暮らしている事を知り、伝統的な歌や踊り、昔のアイヌ民族の子どもの遊びを通して、その楽しさを感じ取る。	<ul style="list-style-type: none">・チセ探検・歌、踊り「ウポポ、ホリッパ」、音楽：ムックリ、トンコリの音色、草で作る笛・アイヌ民話絵本の読み聞かせ	□承文芸 遊び	<p>【1年生】 ・幼児学級で就学前児と遊ぶ</p> <p>【2年生】 ・1年生を招待しての遊び</p> <p>【3年生】 ・サケと千歳川 ・手話体験</p> <p>【4年生】 ・千歳の水 ・聴覚障がい体験</p>	<ul style="list-style-type: none">・ユネスコスクール活動について(啓発資料の発行)・全校ホリッパ(運動会)・未広いいじめシンポジウム
2年	自然物を使って、昔のアイヌ民族の子どもの遊び道具を自ら作って遊んだり、伝統的なアイヌ民族の歌や踊りをさらに知ったり、表現することの喜びを持つ。	<ul style="list-style-type: none">・アイヌ民族の子どもの遊び・歌、踊り「ウポポ、ホリッパ」・チセで聴く民話の語り・弓矢、輪刺し他・遊び道具(ポンアイ=子ども用の矢)作り	自然 環境		
3年	アイヌ民族の伝統的なサケ漁や調理の方法を体験し、千歳や周辺のアイヌ語地名に触れる活動を通して、伝統的なアイヌ民族の暮らしの豊かさや智恵を感じ取る。	<ul style="list-style-type: none">・「マレク」によるサケ漁と解体(「サケのふるさと千歳水族館」にて)・サケ料理「チエボオハウ」・地域のアイヌ語地名	命 食		
4年	昔のアイヌ民族が食物として利用していた植物の栽培・調理の体験を通して、伝統的なアイヌ民族の暮らしの豊かさや智恵、ともに働く喜びを感じ取る。	<ul style="list-style-type: none">・イナキビ、ツチマメ(アハ)の栽培・観察、・イナキビシト(団子)作り・アハ試食・働く時の傭・チセで聴く食料採集と保存の知恵	栽培		

5年	地域の自然を素材とした伝統的な生活用具等を作る技術を体験したり、祈りを大切にしている様子に接したり、現代につながるアイヌ民族の豊かな精神を理解する。	・シナノキ樹皮はがし→ニペシ（内皮織維）取り出し→紐作り ・アイヌ文様の飾りづくり ・チセで祈りの場を見学 ・鹿呼び笛づくり	□承文芸 暮らし文化 歴史人権	【5年生】 ・稻作体験
6年	ムックリ・刺しゅう制作からアイヌ文化の豊かさや差別された時代を含む歴史を学び、国際的な先住民族の様子を知り、共生の社会を創ることの大切さを感じ取る。	・ムックリ作りと演奏、 ・アイヌ民族の歴史と人権（差別から共生へ） ・アイヌ文様の刺しゅう 〈財団の副読本を社会科でも活用する〉		【6年生】 ・車椅子体験

3.活動計画

令和7(2025)年度 末広小学校 アイヌ文化学習 全体計画



アイヌ文化学習の目標 【命・人権・自然の大切さを学ぶ】

- **人権教育**： 様々な民族・文化・個性を尊重し合う「共生」の社会を創って行くことの大切さを学ぶ。
- **環境教育**： 自然あってこそ生物・人間であることを実感し、自然を守り共生し、持続可能な社会を創って行くことの大切さを学ぶ。
- **国際協調教育**： 世界の先住民族の文化や生き方に視野を広げ、協調して平和な世界を希求することの大切さを学ぶ。（ユネスコ・スクール 加盟 2011年）

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
ねらい	アイヌ民族は現代社会の中で一緒に暮らしていく事を知り、伝統的な歌や踊り、昔のアイヌ民族の子どもの遊びを通して、その楽しさを感じ取る。	自然物を使って、昔のアイヌ民族の子どもの遊び道具を自ら作って遊んだり、伝統的なアイヌ民族の歌や踊りをさらに知り、表現するとの喜びを持つ。	アイヌ民族の伝統的なサケ漁や調理の方法を体験し、千歳や周辺のアイヌ語地名に触れる活動を通して、伝統的なアイヌ民族の暮らしの豊かさや智慧、ともに働く喜びを感じ取る。	昔のアイヌ民族が食物として利用していた植物の栽培・調理の体験を通して、伝統的なアイヌ民族の暮らしの豊かさや智慧、ともに働く喜びを感じ取る。	地域の自然を素材とした伝統的な生活用具等を作る技術を体験したり、祈りを大切にしている様子に接し、現代につながるアイヌ民族の豊かな精神を理解する。	ムックリ・刺しゅう制作からアイヌ文化の豊かさや差別された時代を含む歴史を学び、国際的な先住民族の様子を知り、共生の社会を創ることの大切さを感じ取る。
領域	口承文芸、音楽、舞踏、民具、楽器	口承文芸、音楽、舞踏、民具、狩猟（小弓矢）	サケ文化、サケ素材による衣食、地名に残る伝統	食文化、栽培・調理技術、保存技術 作業唄	衣・住文化、民具、狩猟の文化 精神文化（祈り）	芸術文化、歴史・人権（差別・共生）、国際協調
内容・キーワード	チセ探検、歌・踊り「ウボボ、ホリッパ、音楽：ムックリ・トンコリの音色、草で作る笛 アイヌ民話絵本の読み聞かせ	アイヌ民族の子どもの遊び、歌・踊り「ウボボ、ホリッパ、チセで聴く民話の語り、弓矢・輪刺し他、遊び道具（ポンアイ=子ども用の矢）作り	「マレク」によるサケ漁と解体（「サケのふるさと千歳水族館」にて）、サケ料理「チエブオハウ」 地域のアイヌ語地名	イナキビ、ツチマメ（アハ）の栽培・観察、イナキビシト（団子）作り、アハ試食、働く時の唄、チセで聴く食料採集と保存の知恵	シナノキ樹皮はがし→ニペシ（内皮織維）取り出し一紐作り、アイヌ文様の飾りづくり、チセでカムイノミの意味 イバフケニ（鹿呼び笛）づくり	ムックリ作りと演奏、アイヌ民族の歴史と人権（差別から共生へ）、アイヌ文様の刺しゅう 〈財団の副読本を社会科でも活用する〉
連携	講師：アイヌ民族文化財団アドバイザー、千歳アイヌ協会・文化伝承保存会 <全学年>	研究機関：アイヌ民族文化財団、北海道大学、北海道教育大学 <全学年>	「サケのふるさと千歳水族館」との連携 社会見学：「千歳さけます事業所」	社会見学：「北海道博物館・北海道開拓の村」（札幌市） <アイヌ民族文化財団の副読本>	千歳市森林組合より木材の提供を受ける <アイヌ民族文化財団の副読本>	修学旅行：「民族共生象徴空間ウポポイ、国立アイヌ民族博物館」（白老町）

4.活動事例

アイヌ文化学部 2025 審査レポート 6月12日(木)

1年生 「トンコリと、絵本」



高坂さんが自分で作って読んでくださった絵本は、千歳の里田さんから譲っておられた「カンナカムイとむすめん」。もう1冊、「アイヌのイオソッカ」とは、「ホホルールホホホー」という歌り込みメロディーが新しい気持ちになる、千歳のアイヌ民族に伝わる子守歌です。

お誕生日が近いお友だちが代表してアイヌ民族の昔からの看物を読みましたよ！



椎木(サハリン)のアイヌ民族の楽器「トンコリ」。弦はトナカイの腱を細めて作ります。現在でも椎木ではトナカイの皮をかんで。トンコリは北海の海から生まれた楽器。それがヤウンモシリ(北海道の鳥)に伝わって来ました。

アイヌ文化学部 2025 審査レポート 11月26・27・28日

4年生 「イナキビのシト、アハの試食と作業歌」



春から育て収穫したイナキビの実を、ニス(うすし)イワヒ(きぬ)を混ぜて粉にします。みんなで歌ひながら・・・。

シシケブ(いなきびのシト(あだんこ)カラアン フミー！(とってもおいしいです！)



アハ(つまみ)は、茹茹でして試食しました。今年は豊作で、ひとくスプーン1杯、大変にいただきました。とってもおいしいです！



アハ(つまみ)は、茹茹でして試食しました。今年は豊作で、ひとくスプーン1杯、大変にいただきました。とってもおいしいです！

春から育て収穫したイナキビの実を、ニス(うすし)イワヒ(きぬ)を混ぜて粉にします。みんなで歌ひながら・・・。

シシケブ(いなきびのシト(あだんこ)カラアン フミー！(とってもおいしいです！)

アイヌ文化学部 2025 審査レポート 11月18・19・20日

5年生 「鹿呼び笛づくりと『イオマンテ』」



「イオマンテ」と呼ばれるグマの魂をカムイモシリに「送る」儀礼があります。残念なことに今はもうできる機会はありません。しかし「魂を送る」という考え方には、今もとても大切にされていることを学びました。



様々な機種を利用させてきたアイヌ民族は、「アホリ」も発達させました。生活用品に美しい文様を形容文化を「鹿呼び笛：アバクニ」で称。上野岳由美さんご夫婦の趣味をあらためて教えてもらいました。

アイヌ文化学部 2025 審査レポート 9月24日(水)

3年生 1組 「アイヌ伝統漁法『マレク』・サケ皮はぎ体験」



マレク

9月24日(水)

活動毎に写真や説明をまとめ校内に掲示している。子どもたちにとって6年間の活動の見通しが持てるだけでなく、来校者にとっても本校の特色ある教育活動に触れていただく機会にもつながっている。

5.活動の成果・課題

【成 果】

- ・体験をもとにした学習内容を充実させることで、実感のある学びとなった。
- ・地域の人材、環境の幅広い活用を通して、ふるさとのことについてよく知り親しみを持つとともに、発達段階に応じて、多様な歴史や文化など人権教育の側面も持ちながら学習を進めることができた。
- ・地域とのつながりを強めたり、保護者の理解が高まったり、開かれた学校づくりの推進が図られた。
- ・6年間の学習を継続することができた。

【課 題】

- ・地域人材の高齢化等が進んでいることから、新たな協力者などの発掘や自校で貰える指導のあり方など、改善をしていく必要がある。